

熊野学区まちづくり推進委員会

委員長 志田原友逸

（問合せ先） 084-959-0001（熊野交流館）

事業内容

（1）ふれあい事業

- ①夏祭り（8月11日）
- ②里山わくわく祭り（11月12日）
- ③山田の里農園事業（通年）
- ④ふれあい講座（通年）



夏祭り



里山わくわく祭り

（2）地域資源保存・活用事業

- ①一乗山城址整備（10月・12月）
- ②寺迫及び池之内地区並びに桜の里整備（通年）
- ③歴史文化保存事業（通年）
- ④とんど祭り（1月）



山田の里農園事業



ふれあい講座

（3）環境美化・安心・安全事業

- ①自主防災事業（通年）
- ②町内一斉清掃（通年）
- ③花壇の整備（通年）



自主防災事業



歴史文化保存事業

（4）健康づくり推進事業

- ①運動会（5月14日）
- ②町内一周駅伝大会（1月1日）
- ③健康ウォーキング（3月10日）



運動会



健康ウォーキング

（5）まちづくり推進委員会運営事業

- ①会議の開催（通年）
- ②デジタル化の推進（通年）
- ③事務等（通年）

成果

各事業を通して、各種団体や地域住民等が協働し、積極的にまちづくりに参加する機会が増加した。これにより、世代間交流、特に子ども達の思い出づくり、地域の安心・安全、文化財の保全・保護事業等地域の活性化に取り組むことができた。

課題

少子高齢化、働き方改革などに伴い各種団体役員の固定化や担い手不足、更には各種行事への協力者が年々減少し、従来行っていた行事、特に伝統行事の維持・承継ができなくなる危機にある。

課題解決にむけて

広報活動の強化やイベント（行事）の工夫などを行い、多くの住民がまちづくり活動に積極的に参加できるよう促進したい。

～災害被災地に学ぶ（総社市下原地区）～

（安心・安全事業：視察研修）

西日本豪雨災害での

逃げ遅れゼロの取組み



2018年7月に発生した西日本豪雨で、自主防災組織活動の積み重ねが全戸避難につながり、犠牲者を出さなかった総社市下原地区で、避難訓練などの取組について研修した。

○講演で参考になったこと

- ・避難訓練を継続して行うことの重要性
- ・行政との信頼関係（平時から行政との連携：顔の見える関係の構築）
- ・安否確認の方法（班体制で全員避難を目指す）
- ・避難誘導（自主防災組織の本部役員（自治会役員））
- ・災害対応（自主防災組織の本部役員（自治会役員）、消防団、警察）

○下原・砂古自主防災組織のコンセプト

“災害から、全ての住民が逃げ切ることを目指す”

《基本的な考え方》

- ・自分の身は自分で守るが基本・・・自助の啓もう活動
- ・避難は班長の指示に従う・・・自助の支援
- ・結果責任は問わない仕組み・・・全て個人、家族の責任
- ・要配慮者の避難は、家族（自助）が主体・・・班が支援

○今後の地域づくりへの研修成果の活かし方・課題

- ・平時から行政との信頼関係の構築
- ・避難スイッチを自ら押す仕組みづくり
- ・自主防災活動を本番で活かせるよう地域力を高める

